

科目名	理学療法セミナー											
科目名(英)	Physical therapy seminar											
単位数	1	時間数	30	担当者	理学療法学科教員							
実施年度	2020年	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	理学療法士として病院勤務							
対象学科・学年	理学療法学科 3年											
授業概要	適切な実習指導を受け理学療法プログラム立案や治療プログラムにいたる臨床推論を学ぶ準備として、これまでに学習してきた知識・技術をまとめる。また、専門職への相応しい態度や行動また、医療人としての視点を学ぶ。											
授業形式	講義:	<input type="radio"/>	演習:	<input type="radio"/>	実習:		実技:	<input type="radio"/>	※ 主たる方法:	<input type="radio"/>	その他:	△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		客観的臨床能力試験を通して、運動スキルの向上を図り、リスク管理を踏まえて実施できる。						
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				各検査・測定技術に必要な認知スキルを説明できる。						
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				基礎医学分野の国家試験問題について説明できる。						
		<input type="radio"/>				PBL課題を用いて、リハビリテーション実施計画書および経験症例ファイルの作成できる。						
テキスト・教材 参考図書	診療参加型臨床実習の手引き											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	オリエンテーション										
	2	診療参加型臨床実習について					診療参加型臨床実習の手引き 該当範囲を事前に読んでおくこと					
	3	OSCE試験概要と目標について					該当範囲を事前に予習しておくこと					
	4	OSCE 実技					該当範囲を事前に予習しておくこと					
	5	OSCE 実技					該当範囲を事前に予習しておくこと					
	6	OSCE 実技					該当範囲を事前に予習しておくこと					
	7	OSCE 実技試験										
	8	OSCE 実技試験										
	9	OSCE認知スキル試験										
	10	基礎・専門分野 (国試対策講座)					該当範囲を事前に予習しておくこと					
	11	基礎・専門分野 (国試対策講座)					該当範囲を事前に予習しておくこと					
	12	特別講義1(②接遇)										
	13	特別講義2(経過記録)										
	14	特別講義3(リスク管理・心構え)										
15	まとめ											
評価方法	(1)授業の中で実技試験を実施する。(2)授業内で筆記を実施する。(3)レポートを数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合					
	実技試験	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		50%					
	筆記試験		<input type="radio"/>				40%					
	レポート		<input type="radio"/>				10%					
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、評価資格を与えない。											

科目名	臨床実習 I						
科目名(英)	Clinical Education I						
単位数	8	時間数	400	担当者	理学療法学科教員		
実施年度	2020	実施時期	前期	担当者実務経験	理学療法士として病院勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 3年						
授業概要	医療人、また理学療法士としての資質を養うことはもちろんのこと、多様な患者を体験し、診療参加を行いながら理学療法における情意領域、認知領域および精神運動領域を学び、治療及び経過観察の解釈ができる事を目的として実施する。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○			○		臨床の現場で実践することを通し、保健・医療・福祉に関する態度を身に付け行動できる。	
		○	○	○		実習指導者からの助言・指導を基に、多くの検査・測定の機会から基本的な知識・技術を向上できる。	
		○	○	○		具体的な治療場面を経験し、経過を追いつつ修正・補足・変更について解釈し、段階的に実践できる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1						
	2						
	3						
	4						
	5	・臨床実習 I 事前セミナー :2020年4月6日～5月2日					
	6	OSCEによる診療技能練習と試験を実施					
	7	国家試験問題を利用した知識面の整理と実力テストの実施					
	8	コミュニケーション講座によるソーシャルスキル向上					
	9	メンタルケア講座を実施					
	10						
	11	・臨床実習 I :2020年5月11日～7月25日					
	12	※施設の就業規定に応じて10週間実施(5日/週を基本とする)					
	13						
	14						
15							
評価方法	・臨床実習 I 事前セミナー:事前OSCEおよび実力テストなどを実施						
	・臨床実習:実習状況報告書						
	・臨床実習 I 事後セミナー:症例発表会を実施						
	成績評価基準は上記成績を総合的に判定して、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
小テスト							
宿題・レポート							
発表・作品		○	◎	◎			
履修上の注意							